

# 地球規模で快適環境を実現してほしい 社風と文化を大事にしなから

社外取締役インタビュー

社外取締役 佐藤 郁美



## 社外取締役としてステークホルダーから期待される役割をどのように認識していますか？

ステークホルダーが社外取締役に期待していることは、文字どおり、社内役員とは違った経験に基づく監視だと思っています。私は、弁護士としての経験から、違和感を覚えた意見や判断について、取締役会その他の場所で積極的に質問をすることとしています。仕事柄質問に対する回答で、それが、よく考えた結果の意見なのか、あるいはそれ程でもないのかということがわかります。また、質問をすることによって、何故そのような結論になったのかを、社内の方がじっくり考えてくれるという効果もありますし、社外の人にどうやって説明すれば理解してもらえるのかを考えてもらう契機にもなるのではないかと考えています。

また、私の重要な役割として、ダ

イバーシティの実現があると考えています。弁護士会で、男女共同参画の活動に参加し、そのご縁でダイダンの役員を務めさせていただいておりますので、ダイダンでのダイバーシティをどう進めるかについても、私の責務の一つとして認識しています。建設業界は弁護士業界とは全く違った世界ですし、また、これまでの経験から、拙速に改革するだけがいいわけではないと実感しているので、建設業界の良さを残しつつダイバーシティを進めていく方策と一緒に考えていきたいと思っています。個人的には、まずは、建設業界に男性と対等に働く女性を増やすことによって、業界内での潜在的偏見、すなわち、アンコンシャスバイアスをなくしていくことではないかと思っています。

## 取締役会の実効性については、どのように評価していますか？

取締役会は十分に実効的に機能していると思っています。社外役員も、経営審議会、サステナビリティ委員会にオブザーバーとして出席しております。また、支店長会議にも何回か出席しておりますし、さらに、取締役会の数日前には、議案についての事前説明も受けており、また、議案にかかる情報を希望すればすべて入手できる状況にあります。その他、法分野の重要案件については、個別に、相談および状況についての報告ももらっています。その結果としての取締役会ということです。社外の人間として、議案



について判断するために必要な情報を適切に入手でき、議案についてじっくり考え、質問をすることが

できる、という点で、取締役会は十分に実効的に機能していると考えています。

## 当社の環境問題や人権などサステナビリティ課題への取り組みをどのように評価されていますか？

ダイダンの社外役員に就任するまで、ZEBという概念自体を知らなかったもので、初めてダイダンの技術の説明を受けたときに、建物内でエネルギーを作り出すという、再エネを活用したエネルギー自給の発想に感銘を受けました。気候変動への対応が政府主導で推し進められる前から、ダイダンはZEBの技術を開発し、自社ビルをZEB仕様に改築していくことでノウハウを蓄積しています。私も、高松、福岡、札

幌、金沢とZEBで建てられた自社建物をみて歩き、ノウハウを蓄積していくことの重要性を実感しました。新潟で建設中の新支店で、ダイダンのノウハウが凝縮されるのを楽しみにしています。

この取り組みからも、ダイダンにとってサステナビリティは重要な課題と認識されていることがわかります。ダイダンは、光と空気と水で快適・安心・安全を届けるというミッションを持っています。建物だけで

はなく、私たちが快適に暮らすことのできる地球の維持もダイダンの重要な価値の一つです。そして、地球上のすべての生物が快適に生きていける環境を提供する会社になっていって欲しいです。

これからの課題は、働き方改革です。今後、男性も女性も、仕事を行いつつ、リスクリングもし、さらに家事・育児もするという時代になっていきます。私は個人事業主として、仕事、リスクリング、家事育児を担う生活をしてきて、効率的な業務とすることの重要性を実感しています。効率的に働くことについてポジティブな評価を与える価値観の変換も必要です。働き方改革を推進するSMILE2024 Project活動の浸透を見守っていきます。



価値創造の基盤

社外取締役インタビュー

価値創造の基盤

社外取締役インタビュー

## 当社のコンプライアンスの状況について

このたび発覚した不正行為については、何度も臨時取締役会を開催して、逐次、会社側から調査結果の報告や再発防止策についての説明を受けました。私が残念に思った点は、会長が全国で開催した、コンプライアンスセミナーでおっしゃっていたように、不正を行った人たちが人生を誤ることのないように事前に対応することができたのではないか、という点です。社員に違法行為をさせない、社員の人生を誤らせない、そのためのシステム作りをする、という目的で、再発防止策が機能するか、この点を今後確認していきます。

## 当社に期待することなどについて、一言お願いいたします。

なによりも、ダイダンの社風と文化を大事にして欲しいと思っています。具体的には、真面目であること、人を大事にする会社である、という点です。

期待することは、もっと、トライ&エラーを許容して、ダイダンの技術で設備業界を引っ張っていくような会社になって欲しいということです。自由にいろいろトライしてもいいのではないかと思います。エラーから立ち上がる経験は財産になります。

ダイダンは、ZEB技術について、トライ&エラーを調整しながら自社ビルを建て替えていくことでノウ

ハウを蓄積しています。このトライ&エラーを自社ビルで行うところがとても真面目な会社だと思うところですが、もっとさまざまな方面に投資し、技術を開発して、経験を蓄積して欲しいです。

最後に、社員と協力会社の方々にですが、ダイダンの仕事は、オフィスや病院や工場等で働く人々が快適に仕事する環境を提供する大切な業務です。私が法律事務所で快適に弁護士業務を提供できるのも、空調のない建設現場で働く皆さんのお陰です。

さまざまな面から建設業界に対する逆風もありますし、不正行為もありましたが、これからも、今まで通り、ダイダンは、社会が機能するために必要な電気と空気と水を提供していくんだという、高い誇りを維持して仕事をしていただきたいと思います。

### Profile

取締役

**佐藤 郁美** (さとう いくみ)

- 1990年4月 弁護士登録
- 2006年1月 公正取引委員会審判官
- 2017年4月 第二東京弁護士会副会長
- 2018年4月 日本弁護士連合会常務理事
- 2019年4月 総務省情報公開・個人情報保護審査会委員 (現任)
- 2019年6月 当社監査役
- 2021年1月 のぞみ総合法律事務所入所 (現任)
- 2021年4月 日本弁護士国民年金基金常務理事 (現任)
- 2021年6月 当社取締役 (現任)

